中学歴史プリント（過去問類似）
弥生時代

名前 ＿＿＿＿＿＿＿＿

得点 ／9

問1 古代日本の生活文化について述べた次の文のうち、衣料に関する記述として正しいものを選びなさい。（2026年　栃木公立入試　類似）

1. 古墳時代の有力者は、麻のほかに絹を用いた衣服を身につけることもあった。

2. 弥生時代には稲作とともに綿の栽培も伝わり、民衆の服の多くは綿製であった。

3. 古代の日本列島では乾燥した気候を活かした羊の飼育が盛んで、羊毛が主な原料だった。

4. 当時の技術では植物繊維を利用することができず、衣服のすべてが動物の皮で作られていた。

問2 長崎県壱岐市の「原の辻遺跡」は、大規模な環濠集落を特徴とし、中国の歴史書に登場する「一支国（いきこく）」の王都とされています。この一支国も含まれる当時の倭国の様子や、女王卑弥呼が中国へ使者を送った出来事について詳しく記されている書物はどれですか。（2017年　長崎県公立入試　類似）

1. 『魏志』倭人伝

2. 『漢書』地理志

3. 『後漢書』東夷伝

4. 『宋書』倭国伝

問3 弥生時代の人々が、収穫した米を保存する建物の床を地面から高く設計した理由として、当時の工夫を説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2018年　山形県公立入試　類似）

1. 風通しを良くして湿気を防ぐとともに、ねずみなどの害獣が侵入するのを防ぐため

2. 床下を家畜の飼育スペースとして利用し、限られた土地を有効に活用するため

3. 洪水が発生した際に建物全体が水に浮くようにし、米が濡れるのを防ぐため

4. 敵に米を奪われないよう、床下に深い穴を掘って隠し場所を作るため

問4 弥生時代の代表的な遺跡である佐賀県の吉野ヶ里遺跡について、その集落の構造を説明した記述として最も適切なものを次から選びなさい。（2023年　佐賀公立入試　類似）

1. 外敵の侵入や攻撃を防ぐため、集落の周囲に深い溝（濠）を掘り、さらに柵を巡らせている。

2. 収穫した稲をネズミや湿気から守るため、床を高くした高床倉庫が集落の中心に配置されている。

3. 大規模な公共事業を行うため、周囲の山を削って平地を作り、規則正しく住居が並んでいる。

4. 交易を円滑にするため、海岸線に沿って長い石垣が築かれ、港の機能を中心としている。

問5 1世紀半ば、倭の奴国の王が、危険を冒してまで当時の中国の王朝であった漢（後漢）に使節を送り、皇帝から金印を授かった政治的な背景・目的として最も適切なものはどれですか。（2025年　愛媛公立入試　類似）

1. 中国の皇帝から王としての地位を認めてもらい、その権威を背景に周囲の小国に対して優位に立つため

2. 中国で当時流行していた仏教を正式に日本へ導入し、宗教的な力によって国内の混乱を鎮めるため

3. 中国で起きていた大規模な農民反乱を鎮圧するために、倭の軍事力を提供して同盟関係を築くため

4. 中国で発明されたばかりの青銅器や鉄器の製造技術を独占し、列島全体を武力で統一するため

問6 弥生時代に製作された青銅器の一種で、兵庫県の五十六点や島根県の五十四点をはじめ、滋賀県や和歌山県といった近畿地方の府県で多くの出土が確認されている、豊作を祈るなどの祭礼に用いられた道具を何というか。（2024年　京都公立入試　類似）

1. 銅鐸

2. 銅矛

3. 石包丁

4. 勾玉

問7 弥生時代に作られた銅鐸（どうたく）の表面には、梯子がかけられ、床が地面から高く持ち上げられた建築物の様子が描かれています。この建物が、主に収穫した米を蓄えるために用いられた名称として正しいものはどれですか。（2018年　山形県公立入試　類似）

1. 高床倉庫

2. 竪穴住居

3. 平地建物

4. 石舞台

問8 弥生時代の日本列島では、鉄器と青銅器という2種類の金属器が使われていました。鉄器が主に生産や戦闘の道具として発展したのに対し、青銅器が主に「祭祀や儀式の道具」として用いられた理由として、最も適切な説明はどれですか。（2020年　熊本県公立入試　類似）

1. 鉄に比べて強度が低く実用的な道具には不向きだったが、その希少性や美しさが信仰の場で重視されたため

2. 大陸から伝わった時期が鉄器よりも大幅に遅く、すでに農具としての鉄器が普及していたため

3. 加工が非常に困難であり、当時の技術では小さな鏡や鈴の形にすることしかできなかったため

4. 青銅には殺菌作用があると考えられており、食料の保存や医療用の道具として限定的に使われたため

問9 弥生時代、稲作の普及によって余剰生産物が生まれると、富を蓄えた有力者が現れ、各地に小規模な政治集団である「国」が形成されました。当時の倭（日本）の有力な王は、中国の王朝から自らの地位を正式に認められることで、周辺諸国に対する権威を高めようとしました。西暦57年に、倭の「奴国」の王が中国の後漢の皇帝から授かった、その地位を証明するための品物として正しいものを選びなさい。（2018年　神奈川県公立入試　類似）

1. 「漢委奴国王」と刻まれた金印

2. 三角縁神獣鏡

3. 仏像や経典

4. 稲荷山古墳から出土した鉄剣

答え合わせ・解説

問1	**答え 1** **古墳時代の有力者は、麻のほかに絹を用いた衣服を身につけることもあった。**	弥生時代や古墳時代には、すでに麻や絹を織る技術が存在していました。特に身分の高い人物は、貴重な絹を用いた衣服を着用していたことが遺跡の出土品などから確認されています。綿（木綿）や羊毛（ウール）が日本の衣料の主流となるのは、中世以降や近代になってからのことです。
問2	**答え 1** **『魏志』倭人伝**	3世紀の日本の社会情勢や地理、卑弥呼の統治については、中国の三国時代の歴史書「三国志」の一部である『魏志』倭人伝に記載があります。原の辻遺跡のような環濠集落の存在は、当時の倭国が多くの小国に分かれ、交易を行いながらも対立や防衛を繰り返していた社会状況を裏付けています。
問3	**答え 1** **風通しを良くして湿気を防ぐとともに、ねずみなどの害獣が侵入するのを防ぐため**	収穫した米は湿気に弱く、カビが生えやすいため、床を高くして風通しを確保する工夫がなされました。また、柱の上の部分に「ねずみ返し」と呼ばれる板を取り付けるなど、食料を害獣から守るための構造的な特徴を持っています。
問4	**答え 1** **外敵の侵入や攻撃を防ぐため、集落の周囲に深い溝（濠）を掘り、さらに柵を巡らせている。**	弥生時代に稲作が普及すると、土地や水をめぐる争いが起こるようになりました。集落を敵から守るために、周囲に「濠（ほり）」と呼ばれる深い溝を掘ったり、木製の「柵」を立てたりする防御的な構造が取られました。このような集落を「環濠集落」と呼び、佐賀県の吉野ヶ里遺跡はその大規模な例として知られています。
問5	**答え 1** **中国の皇帝から王としての地位を認めてもらい、その権威を背景に周囲の小国に対して優位に立つため**	当時の日本（倭）は100余りの小国に分かれて対立していました。奴国の王は、強大な力を持つ中国の王朝に使節を送り、皇帝に貢ぎ物を届けることで「王」としての承認（冊封）を受けました。授けられた金印は、中国皇帝の威光を背景に自らの支配の正当性を周囲に示すための重要な道具として機能しました。なお、仏教の伝来は6世紀、武力による統一の動きが加速するのは3世紀以降のことです。
問6	**答え 1** **銅鐸**	弥生時代には、大陸から青銅器の技術が伝わり、日本では主に祭りの道具として独自に発展した。銅鐸は近畿地方を中心に、四国や中国地方からも多く発見されており、稲作の豊作を願う儀式などで使われたと考えられている。選択肢にある銅矛も青銅器だが、これらは九州地方を中心に多く出土する傾向がある。
問7	**答え 1** **高床倉庫**	弥生時代には本格的な稲作が始まり、収穫した米を保存するための専用の建物が造られました。銅鐸などの表面に描かれた当時の絵画からも、梯子を使って登る床の高い建物の存在が確認されています。居住用の竪穴住居とは区別して使われていました。
問8	**答え 1** **鉄に比べて強度が低く実用的な道具には不向きだったが、その希少性や美しさが信仰の場で重視されたため**	青銅（銅とスズの合金）は鉄に比べて柔らかく、激しい衝撃が加わる武器や農具として使うとすぐに傷んでしまう欠点がありました。しかし、鋳造によって複雑な模様を表現しやすく、磨き上げると金色に輝くといった装飾的な特徴があったため、集団の結束を高めるための祭りや、神聖な儀式の象徴として利用されるようになりました。
問9	**答え 1** **「漢委奴国王」と刻まれた金印**	稲作が広まった弥生時代には、食料の蓄えや土地を巡って「争い」が起きるようになり、集団を統合するリーダー、つまり「王」が現れました。当時の中国の歴史書である『後漢書』東夷伝には、倭の奴国の王が後漢の光武帝に使いを送り、金印を授かったことが記されています。この金印は江戸時代に現在の福岡県（志賀島）で発見されており、当時の日本が中国の王朝と外交関係を持っていたことを裏付ける重要な資料です。